

触 媒 学 会 の 沿 革

触媒学会年譜

年 度	学 会 全 般	会 長	会誌「触媒」ほか
1958 (S.33)	触媒懇談会として発足 (7月24日)	堀内 寿郎	会誌発刊, Vol.1, 2冊発行
1959 (S.34)	第1回総会開催 (4月1日) 編集委員会設置		
1960 (S.35)		堀内 寿郎	Vol.2より年4冊発行
1961 (S.36)		斯波 忠夫	
1962 (S.37)		斯波 忠夫	
1963 (S.38)		廣田 鋼臈	
1964 (S.39)	触媒学会に改称 (3月30日) 触媒討論会年2回開催始まる 国際触媒会議評議会構成員となり, 評議員2名を選出	廣田 鋼臈	Vol.6より年5冊発行 触媒工学講座全10巻の編集
1965 (S.40)		堀内 寿郎	会誌「堀内教授退官記念号」 発行
1966 (S.41)	触媒研究発表会開催始まる	堀内 寿郎	
1967 (S.42)	特許庁より学術団体の指定を受ける	森川 清	Vol.9より年6冊発行
1968 (S.43)		森川 清	
1969 (S.44)	討論会委員会設置	外山 修	
1970 (S.45)	化学関係学協会連合協議会に入会	岡本 剛	
1971 (S.46)	日ソ触媒セミナー始まる (ソ連) 以後2年 〔以後2年毎に交互開催〕 渉外委員会設置 化学情報協会に入会	内田 熙	
1972 (S.47)	秋の触媒討論会の日本化学会秋季年会連合討論会への参加始まる	堤 繁	
1973 (S.48)		堤 繁	
1974 (S.49)		管 孝男	
1975 (S.50)	文部省科学研究費補助金 (研究成果刊行費) 交付受領始まる	多羅間公雄	
1976 (S.51)	理事会設置	丹羽 丹	
1977 (S.52)		尾崎 萃	
1978 (S.53)		清山 哲郎	
1979 (S.54)	参照触媒委員会発足	慶伊 富長	
1980 (S.55)	第7回国際触媒会議開催 (東京)	寺西士一郎	
1981 (S.56)	C1化学, 触媒調製, 固体酸プロセス化の3委員会発足	米田 幸夫	
1982 (S.57)		安盛 岩雄	
1983 (S.58)	触媒フォーラム開催 (関東, 関西地区) 始まる 渉外広報委員会を改称	小林 晴夫	
1984 (S.59)	事務所五反田に移転 (9月1日) 企画委員会設置 キャタリストサロンの開催始まる 日本学術会議より登録学術研究団体の指定を受ける	泉 美治	
1985 (S.60)	モレキュラーキャタリシス委員会発足	窪川 裕	Vol.27より年8冊発行 触媒講座全11巻を編集
1986 (S.61)	表彰制度を発足 触媒調製, 固体酸プロセス化の2委員会解散	越後谷悦郎	
1987 (S.62)	ファインケミカルズ合成触媒, 表面設計と表面分光, センサ, 高分子 機能設計の4研究会発足 C1化学, モレキュラーキャタリシスの2委員会解散	田丸 謙二	
1988 (S.63)	第1回日韓触媒シンポジウム (韓国) 開催 〔以後2年毎に交互開催〕 实用触媒の学理的基礎, 機能性不定比金属酸化物, 酵素類似機能を有 する触媒, 触媒燃焼, エレクトロキャタリシス, 有機金属の6研究会発 足 創立30周年記念事業実施 〔記念講演会 (3地区), 会誌記念特集号, 世 界一周触媒セミナー, 会員名簿, 記念パーティー, 特別表彰〕 「参照触媒利用の手引き・論文リスト」の会員向け頒布開始	田部 浩三	
1989 (H.1)	表面設計と表面分光研究会解散 第4回日中米触媒シンポジウム開催 (札幌)	大西 孝治	会員名簿 (1988年版) 発行

年 度	学 会 全 般	会 長	会誌「触媒」ほか
1990 (H.2)	コンピュータ利用研究会発足 機能性不定比金属酸化物, 酵素類似機能を有する触媒, 高分子機能設計触媒の3研究会解散 TOCAT 1開催 [以後4年毎に開催]	村上 雄一	会誌の論文に英文要旨掲載 (Vol.32, No.8より) 触媒討論会討論記録の会誌掲載廃止 (第65回より)
1991 (H.3)	生体関連触媒, 触媒の機能と設計に関する表面, CO ₂ 固定化, フロン関連触媒の4研究会発足 第1回日英触媒シンポジウム開催 (東京) (社)日本工学会に入会	斉藤 泰和	
1992 (H.4)	重合触媒設計, スピルオーバーの2研究会発足	今中 利信	会員名簿 (1992年版) 発行
1993 (H.5)	電子または光子のかかわる触媒 (エレクトロキャタリシスを改称), 機能と材料に関する表面材料 (触媒の機能と設計に関する表面を改称), フロン関連物質触媒 (フロン関連触媒を改称) の3研究会再発足	泉 有亮	「触媒技術の動向と展望」(触媒年鑑) 発行始まる
1994 (H.6)	会費の自動引き落とし制度発足 Japan - FUS 触媒セミナー開催 (つくば) TOCAT 2開催	御園生 誠	
1995 (H.7)	水素授受プロセス研究会発足 センサ研究会解散	小野 嘉夫	
1996 (H.8)	実用触媒の学理的基礎, 触媒燃焼の2研究会解散	乾 智行	会誌「触媒」の表紙デザイン改訂 (Vol.38より) 会員名簿 (1996年版) 発行
1997 (H.9)	高難度選択酸化反応研究会発足 精密表面材料 (機能と材料設計に関する表面材料を改称), ハロゲン関連物質触媒 (フロン関連物質触媒を改称) の2研究会再発足	諸岡 良彦	会誌の発売元を槇書店より (財)日本学会事務センターへ移行
1998 (H.10)	マイクロポラス結晶合成, 水素の製造と利用のための触媒技術, メソ多孔体の触媒化学の3研究会発足 触媒学会創立40周年記念パーティーを開催 TOCAT3開催	小野田 武	会誌「40周年記念号」発行 (Vol.40, No.1)
1999 (H.11)	表彰制度の変更: 技術賞を学会賞 (技術部門) とし学会賞 (学術部門) との2本立てとする 触媒学会ホームページを開設	吉田 郷弘	触媒誌A4判化
2000 (H.12)	CO ₂ 固定化研究会終了, 天然ガスの高度利用触媒研究会発足	八嶋 建明	会員名簿 (2000年版) 発行
2001 (H.13)	マイクロポラス結晶合成研究会, メソ多孔体の触媒化学研究会を終了, 規則性多孔体の合成と機能に関する研究会が発足	服部 英	会誌「触媒」の表紙デザイン改訂 (vol.43より)
2002 (H.14)	電子または光子のかかわる触媒研究会を終了, ナノ粒子, 燃料電池関連触媒, 光触媒, マイクロリアクターの4研究会が発足 TOCAT4開催	菊地 英一	
2003 (H.15)	第91回触媒討論会より発表申込みのWeb受付を開始 事務所移転問題ワーキンググループ発足	服部 忠	
2004 (H.16)	学会事務所を化学会館3階に移転 規則性多孔体の合成と機能に関する研究会が規則性多孔体研究会に改称, 環境触媒研究会が発足	瀬川 幸一	会員名簿 (2004年版) 発行 会誌の発売元を(株)メディア・イッシュへ移行
2005 (H.17)	事業・会計年度を変更 (H18年度から3 / 1 ~ 翌年2 / 末に) 入会申込, 会員データ変更申請のWeb受付を開始 ハロゲン化合物の触媒反応研究会を終了	岩澤 康裕	
2006 (H.18)	総会を代議員制に変更, 全体幹事会を廃止し, 地区に地区幹事会を置く 理事会の下に事業推進部門, 企画・戦略部門, 表彰部門, 総務部門を設け各委員会をその下に位置づける 企画委員会, 会員増強委員会を学術委員会, 経営委員会に再編, 教育推進委員会を新設 地区会計を改変し学会会計を一本化 マイクロリアクター研究会が終了, 天然ガス高度利用触媒研究会がメタン関連触媒研究会に改称, 工業触媒研究会, 触媒機能の基盤研究会が発足 TOCAT5開催	滝田 祐作	
2007 (H.19)	事業推進部門に基盤活動委員会を設置, 参照触媒部会 (参照触媒委員会を改称) をその下に位置づける 第100回記念触媒討論会 「トコトンやさしい触媒の本」を刊行 触媒学会ロゴマークを募集・決定	岩本 正和	会誌の発売元を(株)毎日学術フォーラムへ移行

年 度	学 会 全 般	会 長	会誌「触媒」ほか
2008 (H.20)	触媒学会創立50周年記念事業 (予定を含む)：記念式典・記念祝賀会、国際シンポジウム、「触媒便覧」刊行、若手研究者育成基金開設、公開講座等 関東地区、関西地区を東日本地区、西日本地区に改称	(未定)	会誌「50周年記念号」発行 (Vol.50, No.1) 会誌「触媒」の表紙デザイン改訂 (Vol.50より) バックナンバーのWeb公開

触媒討論会の記録

回数	開催年月日 初日と()日数	テーマ	会 場	講演件数	参加者数 ()うち学生	討論会 委員長	実 行 委員長
1	1951. 9. 6 (3)		北海道大学	13+1 (特別講演)	60		
2	1953. 7. 23 (3)		北海道大学	10+1 (")	150		
3	1954. 4. 5 (2)		東京工業大学	21			
4	1955. 7. 22 (3)		北海道大学	16+3 (")	150 (推定)		
5	1956. 3. 31 (2)		京都大学	19+1 (")	400 (推定)		
6	1957. 4. 2 (2)		東京大学	32+1 (")	600 (推定)		
7	1958. 7. 22 (3)		北海道大学	19	100		
8	1959. 3. 31 (2)		大阪商工会議所	23	350		
9	1960. 4. 2 (2)		東京理科大学	17+4 (")	-		
10	1961. 7. 26 (3)		北海道大学	26	-		
11	1962. 3. 30 (3)		立命館大学 (京都)	25+3 (")	-		
12	1962. 12. 8 (2)		東京都立大学	26	-		
13	1963. 9. 24 (2)		北海道大学	32+3 (")	-		
14	1964. 3. 30 (1)	酸化反応	東京大学	10	-		
15	1964. 11. 9 (3)		大阪科学技術センター	34	-		
16	1965. 3. 31 (2)	重合反応触媒	大阪科学技術センター	17	-		
17	1965. 10. 18 (3)		東京科学技術館	34+2 (")	-		
18	1966. 3. 29 (2)	水素化・脱水素	東京科学技術館	18+2 (")	-		
19	1966. 9. 20 (3)		北海道大学	36 (B29,A7)	-		
20	1967. 3. 29 (2)	錯体	東京科学技術館	17 (B14,D3)	-		
21	1967. 10. 3 (3)		富山大学	52 (B39,A13)	-		
22	1968. 4. 5 (2)	反応中間体	関西大学	17 (B17)	-		
23	1968. 10. 6 (4)		宮城県民会館 (仙台)	56 (B34,A22)	-		
24	1969. 3. 29 (2)	有機合成と反応機構	東京都立大学	21 (B16,D5)	-		
25	1969. 10. 18 (3)		第一薬科大学 (福岡)	71 (B41,A30)	-		
26	1970. 4. 1 (2)	触媒の選択性	東京科学技術館	14 (B13,D1)	-		
27	1970. 10. 18 (3)		名古屋大学	65 (B25,A40)	-		
28	1971. 4. 5 (2)	酸・塩基触媒反応	大阪科学技術センター	23 (B23)	-		
29	1971. 8. 19 (3)		北海道大学	92 (B30,A62)	-		
30	1972. 3. 30 (2)	酸化反応	東京工業大学	21 (B21)	-		
31	1972. 10. 11 (4)		中京大学 (名古屋)	98 (B32,A66)	-		
32	1973. 3. 30 (2)	水素化・脱水素	東京工業大学	20 (B20)	-	正木 澄	
33	1973. 10. 10 (4)		広島大学	118 (B28,A90)	-	正木 澄	
34	1974. 3. 30 (2)	錯体	神戸大学	18 (B18)	-	正木 澄	
35	1974. 10. 2 (4)		東北工業大学 (仙台)	139 (B33,A106)	-	正木 澄	
36	1975. 3. 30 (2)	固体酸・塩基	東京工業大学	18 (B18)	-	吉田郷弘	
37	1975. 10. 17 (4)		九州大学箱崎	143 (B30,D3,A110)	-	吉田郷弘	
38	1976. 3. 30 (2)	酸化反応	東京工業大学	16 (B16)	-	榎本三郎	
39	1976. 8. 28 (4)		北海道大学	114 (B21,A93)	-	榎本三郎	
40	1977. 3. 30 (2)	水素の関与する反応	大阪大学工学部	24 (B24)	-	大西孝治	
41	1977. 10. 6 (4)		富山大学	135 (B36,A99)	-	大西孝治	
42	1978. 3. 30 (2)		東京工業大学	16 (B16)	-	大西孝治	
43	1978. 10. 15 (4)		名古屋大学	145 (B34,A111)	-	大西孝治	
44	1979. 10. 18 (4)		九州大学	171 (B47,A125)	-	今中利信	

回数	開催年月日 初日と()日数	テーマ	会 場	講演件数	参加者数 ()うち学生	討論会 委員長	実 行 委員長
45	1980. 3. 30 (2)		大阪大学基礎工学部	20 (B20)	—	今中利信	
46	1980. 9. 17 (4)		東北工業大学 (仙台)	164 (B39,A125)	—	今中利信	
47	1981. 4. 3 (2)	C1 化学	東京工業大学	32 (B25,D7)	—	御園生誠	
48	1981. 10. 12 (4)		岡山大学	180 (B41,A139)	—	御園生誠	
49	1982. 3. 30 (2)	触媒調製	東京大学工学部	38 (B32,D6)	—	御園生誠	
50	1982. 10. 2 (4)		新潟大学	175 (B29,A146)	—	御園生誠	
51	1983. 3. 30 (2)	固体酸・塩基	京都大学教養部	33 (B27,S6)	296 (28)	山添 昇	
52	1983. 8. 27 (4)		北海道大学	186 (B36,A150)	—	山添 昇	
53	1984. 3. 30 (2)	複合効果	上智大学理工学部	34 (B23,S11)	329 (53)	山添 昇	
54	1984. 10. 2 (4)		静岡大学工学部	196 (B46,A150)	425 (102)	山添 昇	
55	1985. 3. 30 (2)	新しい触媒材料	日本大学理工学部	49 (B23,S26)	414 (61)	森川 陽	
56	1985. 10. 4 (4)		金沢大学	208 (B41,A167)	—	森川 陽	
57	1986. 3. 30 (2)	分子レベルでの触媒と 反応の制御	同志社大学	45 (B31,S14)	329 (53)	森川 陽	
58	1986. 10. 16 (4)		名古屋工業大学	211 (B37,A174)	—	森川 陽	
59	1987. 3. 30 (2)	表面の新しい機能を探 る	上智大学	70 (B35,S35)	404 (62)	乾 智行	
60	1987. 10. 16 (4)		九州大学箱崎	246 (B41,A205)	—	乾 智行	
61	1988. 3. 30 (2)	触媒の設計と合成の思 想	東京大学工学部	45 (B45)	427 (54)	乾 智行	
62	1988. 9. 27 (4)		東北大学教養部	238 (B36,A202)	—	乾 智行	
63	1989. 3. 30 (2)	21世紀の触媒を目指 す萌芽的研究	京都工芸繊維大学	25 (B25)	245 (22)	岩澤康裕	
64	1989. 10. 11 (4)		長崎大学教養部	173 (B42,A131)	519 (140)	岩澤康裕	
65	1990. 3. 30 (2)	触媒の構造と機能	日本大学理工学部	25 (B25)	337 (33)	岩澤康裕	
66	1990. 10. 2 (4)		広島大学東千田	271 (B39,A232)	—	岩澤康裕	
67	1991. 3. 27 (2)	地球環境と触媒	東京工業大学大岡山	60 (B29,P31)	440 (44)	土屋 晉	
68	1991. 9. 22 (4)		北海道大学	300 (B30,A270)	—	土屋 晉	
69	1992. 4. 1 (2)	生存のための触媒科学	関西大学	42 (B22,R11,P9)	355 (26)	土屋 晉	
70	1992. 10. 2 (4)		新潟大学五十嵐	317 (B30,A287)	—	土屋 晉	
71	1993. 4. 1 (2)	炭素資源の有効利用	東京工業大学大岡山	33 (B27,R6)	352 (27)	服部 忠	
72	1993. 9. 27 (4)		関西学院大学	326 (B28,A298)	—	服部 忠	
73	1994. 4. 2 (2)	窒素酸化物の低減	工学院大学新宿	53 (B17,R27,P9)	449 (44)	服部 忠	
74	1994. 10. 5 (4)		鹿児島大学	362 (B35,A327)	552 (143)	服部 忠	高橋武重
75	1995. 3. 31 (2)	活性点構造	甲南大学 (神戸)	55 (B30,R14,P11)	302 (29)	秋鹿研一	船引卓三
76	1995. 10. 5 (4)		室蘭工業大学	355 (B44,D1,A310)	593 (190)	秋鹿研一	菖蒲明己
77	1996. 4. 1 (2)	21世紀を担う「触媒」	千葉大学	66 (B35,R13,P18)	408 (49)	秋鹿研一	上松敬禧
78	1996. 10. 8 (4)		九州大学箱崎	413 (B44,A369)	739 (197)	秋鹿研一	若林勝彦
79	1997. 3. 31 (2)	次世代型触媒研究のフ ロンティア	東京大学駒場	63 (B27,R14,P22)	391 (50)	船引卓三	—
80	1997. 9. 17 (4)		信州大学上田	464 (B45, A358,P61)	667 (229)	船引卓三	高須芳雄
81	1998. 03. 30 (2)	未来を拓く触媒研究 (40th記念大会)	大阪府立大学	150 (B30, R2, P118)	608 (86)	船引卓三	安保正一
82	1998. 09. 16 (4)		愛媛大学	378B45, A276, P57)	672 (193)	船引卓三	山口 力
83	1999. 03. 27 (2)	触媒研究における発見 と展開	上智大学	110 (B37, R2, P71)	438 (65)	山口 力	瀬川幸一
84	1999. 09. 29 (4)		秋田大学	387 (B43, A281, P63)	638 (212)	山口 力	小沢泉太郎
85	2000. 03. 27 (2)	触媒化学の新しい立脚 点を探る	千葉工業大学	119 (B35, R2, P82)	435 (78)	山口 力	山口達明
86	2000. 09. 19 (4)		鳥取大学	457 (B44, A326, P87)	704 (245)	山口 力	丹羽 幹
87	2001. 03. 27 (2)	21世紀の触媒展望— サイエンスとテクノロ ジー	関西大学	166 (B49, R1, P116)	436 (93)	高須芳雄	鈴木俊光
88	2001. 10. 09 (4)		別府市	493 (B52, A343, P98)	816 (249)	高須芳雄	瀧田祐作
89	2002. 03. 23 (2)	触媒調製—その原点と 発展	神奈川大学	141 (B35, R1, P105)	452 (87)	高須芳雄	内藤周式
90	2002. 09. 18 (4)		浜松市	436 (B53, A327, P56)	768 (245)	高須芳雄	上野晃史

回数	開催年月日 初日と()日数	テーマ	会場	講演件数	参加者数 ()うち学生	討論会 委員長	実行 委員長
91	2003. 03. 26 (2)	クリーンエネルギーを 生み出す触媒－水素, メタン, 燃料電池	横浜国立大学	153 (B49, R2, P102)	486 (97)	金田清臣	辰巳 敬
92	2003. 09. 18 (4)		徳島市・徳島大学	535 (B48, A398, P89)	882 (305)	金田清臣	林 弘
93	2004. 03. 30 (2)	グリーンケミストリー	大阪大学	178 (B44, R5, P129)	532 (111)	金田清臣	金田清臣
94	2004. 09. 27 (4)		東北大学	541 (B53, A389, P99)	946 (311)	金田清臣	村松淳司
95	2005. 03. 30 (2)	ナノ構造の触媒化学－ 制御・解析・機能－	東京工業大学	151 (B38, R3, P110)	541 (111)	内藤周式	大塚 潔
96	2005. 09. 20 (4)		熊本市・熊本大学	495 (B43, A368, P84)	824 (278)	内藤周式	松本泰道
97	2006. 03. 19 (2)	シナジー効果を目指し た機能の複合化	早稲田大学	144 (B29, R2, P113)	507 (122)	内藤周式	松方正彦
98	2006. 09. 26 (4)		富山市・富山大学	513 (B42, A392, P79)	901 (308)	内藤周式	椿 範立
99	2007. 03. 28 (2)	エネルギー創成・貯 蔵・変換のための触媒 化学	神戸大学	189 (B33, R3, P153)	522 (115)	山下弘巳	鶴谷 滋
100	2007. 09. 17 (4)		札幌市・北海道大学	585 (B53, A471, P61)	1022 (313)	山下弘巳	上田 渉

会員数・触討発表件数

